

アスパラガス

科名	ユリ科
原産地	南ヨーロッパからロシア南部
連作障害	アレロパシー作用あり

制作 JAファーム 専門部会
(無断転載禁止)

1 畑の準備

アスパラガスは多年生植物のため、植え付け後の土壌改良は難しいので植え付け前にしっかり土作りを行います。

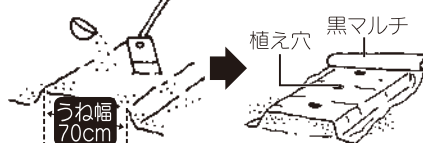
土作り

植え付けの1ヶ月前までに苦土石灰、堆肥をまき、30~40cm位深く耕します。

土作り
・苦土石灰: 1㎡あたり160g
・JAファーム有機堆肥: 1㎡あたり20kg

元肥・うね立て・マルチ張り

植え付けの10日前までに元肥をまき、うね立てを行います。保温、雑草発生防止を兼ねて黒マルチを張ります。



元肥
・JAファームやさいの元肥: 1㎡あたり100~120g(ひと握り約40~50g)
・ケイフン: 1㎡あたり3kg(それぞれ全面に)

4 茎葉の刈り取り・野ねずみ・もぐら 駆除

刈り取り

晩秋の霜が2~3回降りると、茎葉が黄変します。地ぎわより地上部の刈り取りを行います。(茎葉の緑が抜けたから)

茎葉は全て畑の外へ持ち出す。

病気の感染のない茎葉は、畑の通路に溝を掘り埋め込む。(堆肥化させる)

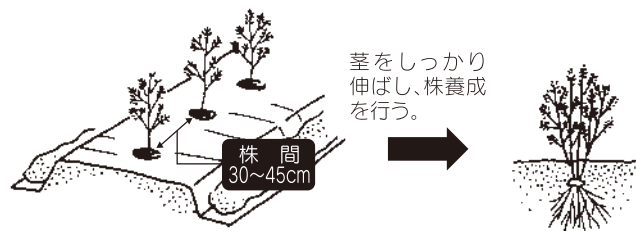


野ねずみ・もぐら対策

石灰チッソを1㎡あたり60g降雪前にまきます。直接の駆除は専門の忌避剤が必要です。

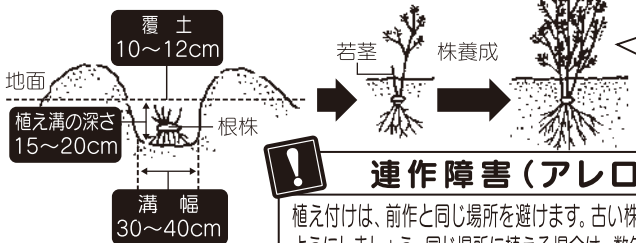
2 植え付け・株の養成

ポット苗の植え付け 植え付けは、霜の心配のない頃に行います。(5月中旬~6月)



1年目は収穫は行わない。植え付け初年度の株養成管理をしっかりし、根に養分を蓄積させる。

根株(1年生養成苗)の植え付け



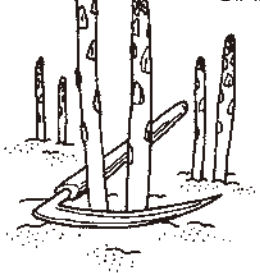
1~2年目の期間は基本的に養成期間であり、収穫はしない。しかし、順次茎を立てていく場合は、不良茎は収穫して株元の管理を行う。

連作障害(アレロパシー)対策

植え付けは、前作と同じ場所を避けます。古い株の根はなるべく土の中に残さないようにしましょう。同じ場所に植える場合は、数年間空けてから植えつけましょう。

5 収穫(春どり)・株養成の開始

植え付け後、3年目より本格的な収穫となります。(収穫時期4~6月上旬) 収穫の打ち切りは、前年の生育状況で決定します。



収穫期間

■3年目: 30~40日
■4年目: 60日

↓ 収穫の打ち切り

打ち切りの目安(一定の期間で収穫を止める)

- ・1日の収量がピーク時の30%前後に落ちてきた頃。
- ・穂先の開きが目立ってきたら。
- ・茎葉の曲りや、細ものが増えてきたなど。

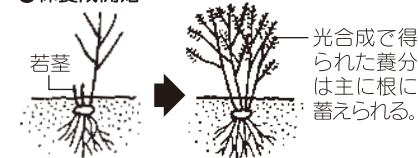
株養成の開始

春どりを打ち切り、株養成を行います。

元肥
・JAファームやさいの元肥: 1㎡あたり80~100g(ひと握り約40~50g)
・JAファーム有機堆肥: 1㎡あたり2~3kg

※元肥は、春の収穫終了後に行う。

株養成開始

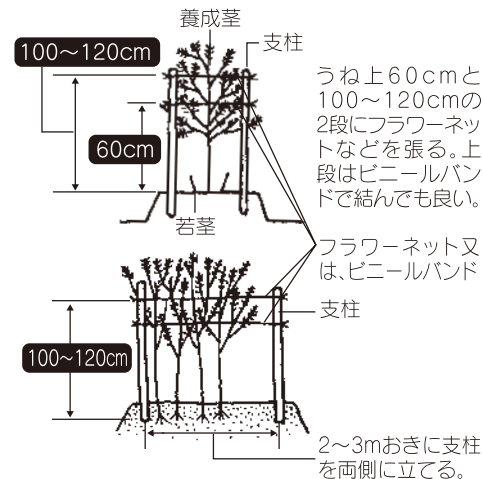


春どりのみの場合、1株9~10本で、1㎡あたり23~25本を目安に茎数を確保する。

3 支柱立て・誘引

倒伏すると風通しが悪くなり病害虫の発生につながるため、伸長に合わせて早めに誘引を行います。

倒伏防止対策(茎葉支柱の立て方)



うね上60cmと100~120cmの2段にフラワーネットなどを張る。上段はビニールバンドで結んでも良い。

フラワーネット又は、ビニールバンド

2~3mおきに支柱を両側に立てる。

6 夏場の管理

定期的なかん水

- アスパラガスは97%が水分です。十分なかん水を心掛けましょう。
- 株養成開始後は病害発生を助長することになるので、茎葉には水ができるだけかからないようにします。

茎葉の管理

- 倒伏防止をしっかりと行い、下枝は50cmくらいまでとりのぞきます。横枝は垂れてきたら軽く摘みます。
- 常に風通しがよい畑にします。
- 1株9~10本に仕立てる(うね1㎡あたり23~25本程度)。

病害虫防除

病害虫は発生してからだと防除が困難となります。特に梅雨入、明け時の病害虫防除が重要です。

- 秋の茎葉の刈り取りからは、毎年同一の作業が繰り返となります。
- (4)茎葉の刈り取り→(5)収穫→(3)支柱立て→(6)夏場の管理